

学 校 概 要

創立昭和50年 校長 山崎 浩一郎 副校長 砂田 哲男 学級数 8 児童数 118 深谷中ブロック

学 校 教 育 目 標

知	よく聞き、よく考える子どもを育てます。	徳	自分も友達も大切にする子どもを育てます。
体	心も体も健やかな子どもを育てます。	公	俣野のまちを大切にする子どもを育てます。
開	様々な人と進んでふれ合う子どもを育てます。		

学 校 経 営 中 期 目 標

- 学校教育目標を実現するために、小規模校のよさを生かし、一人ひとりが活躍できる学校づくりを目指します。
- 一人ひとりの子どもが学習の楽しさを実感し、算数科を中心に、確かな学力が身に付くよう、学力の向上に努めます。
 - 一人ひとりの子どもの活躍できる場を保障し、自尊感情を高めるとともに、縦割り活動等を通して、異学年の友達とも積極的に交流し、互いのよさを認め高め合うようにしていきます。また、いじめの未然防止に努めます。
 - 小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、コミュニケーション能力を高め、まちのために自ら実践する力を育てます。
 - 教職員がさらに人権感覚を磨き、相互に啓発・連携する活気あふれた学校運営組織の確立を目指します。

学校経営 中期目標 設定理由

本校では、これまでの3年間「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指し、「しっかり勉強」「笑顔であいさつ」「みんな友達」を合い言葉に、一人ひとりを大切にした教育活動を推進してきた。その結果、多くの子どもが異学年の交流の中で、自分らしさを発揮し 生き生きと学校生活を送っている。

27年度は、子どもの決めた学校テーマ「まいにち たのしい しょうがっこう」をめざし、学力の向上はもとより、自分らしさを発揮できるよう、創立40周年の節目に、さらに家庭・地域と連携しながら、信頼されるまちとともに歩む学校づくりを推進していくことが大切である。

小 中 一 貫 教 育 推 進 ブ ロ ッ ク 目 標

共通目標

「観」の共有化の継続と実践へ素直に見聞を広め、自らを向上させることができる子どもの育成～をテーマとして、ブロック内の子どもたち誰もが、素直な気持ちでまちに目を向け、積極的に働きかけたり、自らを向上させたりしていけるように、9年間で育てる力を明確にして俣野の子を育てています。

自校の取組

教職員の共通理解のもと、学年内はもとより異学年との交流を積極的に行う中で、自分らしさを発揮できる場を数多く設定できるようにしています。また、小中の交流を通して、小学生が中学生からよいところを学び取る姿勢を育て、俣野のまちを活気あふれるようにします。

共 通 取 組 内 容

1 確かな学力

- 子どもの基礎的な学力の向上を図るため、「分かる楽しい授業」を展開し、見通しと振り返りを大切に課題解決に自主的・自立的に学習に取り組む力を育てていきます。
- 算数科の研究を柱として、全教員が研究授業を行う中で、既習事項を生かし、授業力の向上を目指します。

2 豊かな心

- 道徳の時間を中心に、様々な教育活動において、自他を大切に、善悪の判断ができる心情や実践的な態度を育てていきます。
- 「まいにちたのしいしょうがっこう」という学校テーマのもと、笑顔であいさつをし、誰もが友達として豊かに交流し合える場面を多く保障していきます。

3 健やかな体

- 27年度学校保健委員会のテーマである「心の健康」に目を向けるとともに、一校一実践運動の「縄跳び運動」に年間を通して取り組み、心と体の健康・体力の向上を図っていきます。
- 子どもの体力に家庭でも目を向けられるよう、親子体力テストを実施します。

重 点 取 組 分 野

4 特別支援教育

・子ども一人ひとりの個性を重視し、それぞれの課題に応じた個別の教育支援計画に基づいた指導を継続的に行っていきます。取り出し等支援の必要な児童への対応をします。

5 児童生徒指導

・児童支援専任を中心として、いじめ等、子どもを取り巻く諸課題を学校・家庭・地域及び関係機関と連携しながら、組織的に解決していくとともに、未然防止に努めます。

6 地域連携

・中学校ブロックや地域との連携により、子どもの9年間の成長を見据えた教育活動を行う必要があります。そのためには、いっそう、地域との連携を進めます。

7 縦割り活動

・小規模校の特色を生かし、異学年との交流(授業交流も含む)を活発にすることで、豊かな心もコミュニケーション能力を育成します。

人 材 育 成 ・ 組 織 運 営

- 校内研修を年間を通して、計画的・意図的に行うことで、授業力向上、コンプライアンス、児童指導、危機管理対応能力、あゆみの誤記載防止等、教師力が向上していくようにします。
- 各校務分掌、各学年の相互連携により、各種の業務や学校行事等の取組が機能性の高いものとなり、効果的な教育活動に反映されています。とりわけ、ブロック研究会、メンターチームでの研修を充実させ、情報交換を密にしていきます。
- 創立40周年の節目により保護者・地域との連携を深め、2年後の学校統合に向け、円滑な移行ができるようにします。